

令和6年度の協議会概要

令和6年度の目黒本町五丁目地区密集市街地総合防災協議会は3回開催しました。補助 46号線整備に関しては、令和5年度には交差点の信号機設置にかかる要望書を警視庁（碑文谷警察所長）と東京都（第一市街地整備事務所長）へ提出し、令和6年度も協議を重ねています。

◎ 第1回協議会

開催日時

令和6年6月25日(火)
18:30~20:40

会場

向原住区センター2階
第1・2会議室

議事項目:

- ◇補助 46号線の進捗状況
- ◇隣接地区の公園整備の状況
- ◇事業延伸に向けた取組 等

主な意見:

- ◇工事途中で歩道に大きな段差があり危険な箇所が多々ある。遅れている工事を早く進めてほしい。
- ◇公園が1つもない町会があるので区の尽力で適地の交渉を進めてほしい。

◎ 第2回協議会

開催日時

令和6年10月24日(木)
19:00~20:45

会場

向原住区センター地下1階
プレイルーム

議事項目:

- ◇補助 46号線工事の進捗、クランク部の整備について
- ◇公園用地取得に向けた取組
- ◇第1回事業評価委員会の報告
- ◇防災講演会開催について 等

主な意見:

- ◇信号機設置箇所は小学校の通学路なので新学期までに設置を要望したい。
- ◇防災講演会の集客のためにチラシを魅力的にPRし、各町会の防災部等へも協力の要請をしよう。

◎ 第3回協議会

開催日時

令和7年1月31日(金)
18:30~20:20

会場 (第1回と同じ)

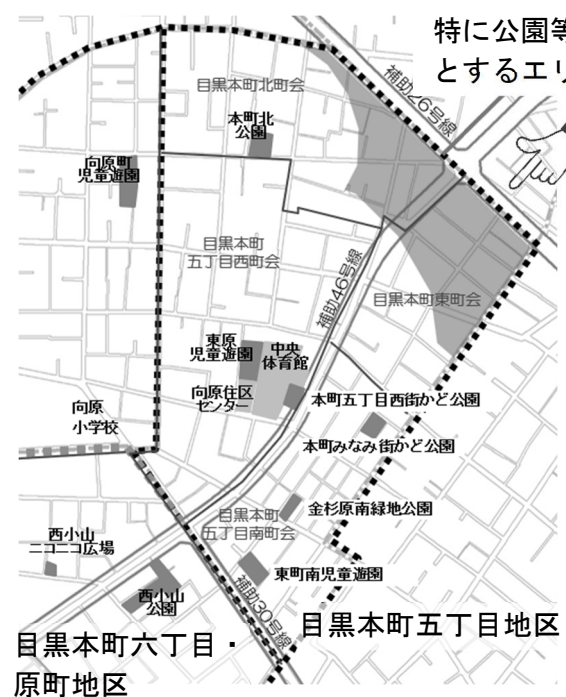
議事項目:

- ◇第2回事業評価委員会の報告・事業延伸について
- ◇防災講演会の実施報告
- ◇街づくりニュース案 等

主な意見:

- ◇防災講演会の内容は、町会や住区の防災訓練や避難所運営等と連携し、区の関連部署とも横断的に取組む必要がある。
- ◇防災設備等を収納する場所が少なく各町会苦勞している。公園整備をなんとしても実現し防災倉庫も設置したい。

公園・広場用地を探しています



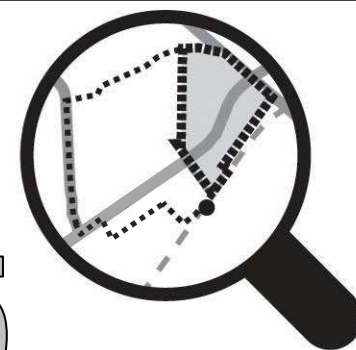
特に公園等を必要とするエリア

令和5年度に協議会委員と区事務局とで地区内まち歩きをして、公園等の候補地を見て回りました。その後、関係者等へのご意向を確認していますが、公園用地の確保には至っていません。地区内で、土地の利活用を将来的に検討されている方、未利用地（使われていない土地等）や空家等を所有されている方など、まずは目黒区にご相談ください。

お問い合わせ等は、下記事務局までお願いします。
事務局 目黒区 街づくり推進部 木密地域整備課
木密地域整備係(担当:鈴木、長谷川、飯場)
電話 03-5722-9672(直通)
〒153-8573 目黒区上目黒 2-19-15(総合庁舎本館6階)

目黒本町五丁目地区 街づくりニュース

No.75



令和7年2月

発行：目黒本町五丁目地区密集市街地総合防災協議会

木密事業に関するアンケートへご協力お願いします

目黒区では、木密事業に関するアンケート調査を実施しています。アンケートは右のQRをスマートフォン等で読み取るとアクセスできます。順番にクリックしていくと数分で完了します。地域の皆さまからご意見をいただき今後のまちづくり活かしていきます。



木密事業の延伸に向けて 事業評価委員会 が開催されました

目黒本町五丁目地区の木密事業は、昭和 63 年度より 37 年間継続してきました。現在の計画では、令和7年度事業終了の予定ですが、引き続き事業継続を目標として、令和6年度に事業評価委員会を2回開催しました。

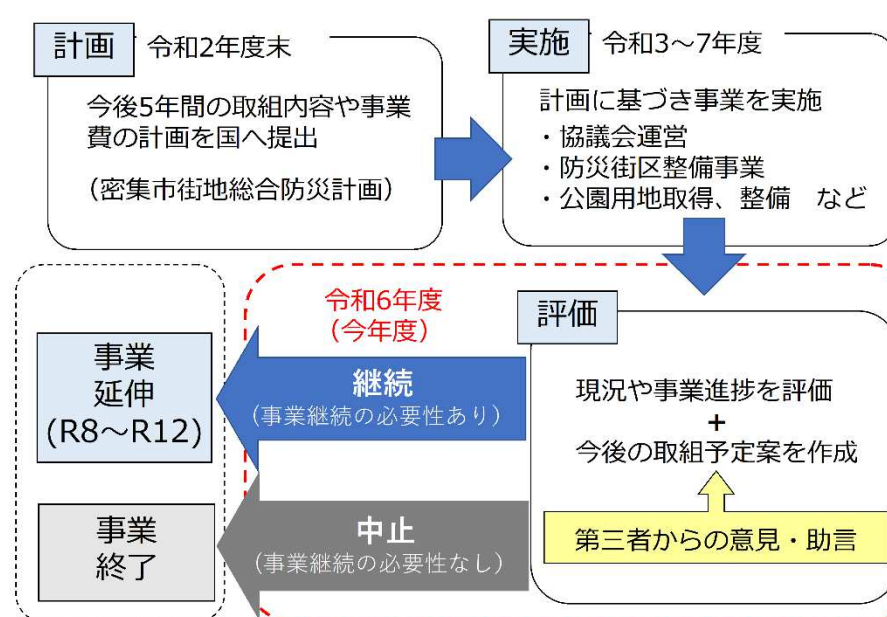
学識経験者3名の事業評価委員を中心に、木密事業の進捗や状況の変化や今後の予定事業の効果等を検証し、事業継続の必要性を審議しました。評価内容は、目黒区から東京都を通じて、国へ提出します。

第1回事業評価委員会 令和6年8月28日(水)開催
第2回事業評価委員会 令和7年1月24日(金)開催

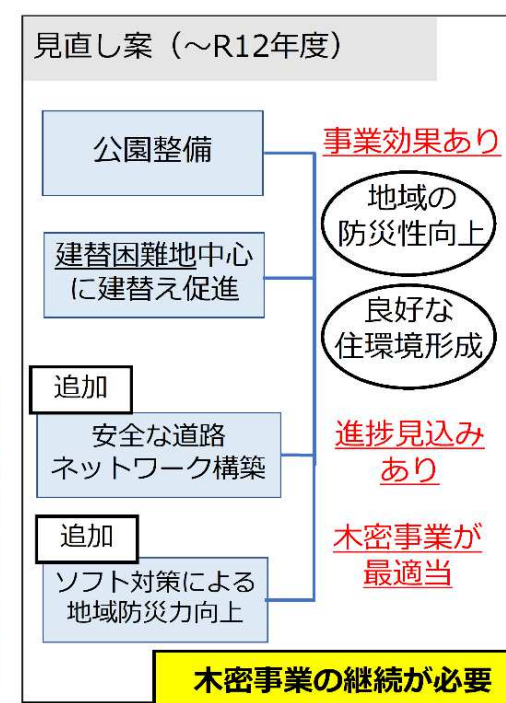


地区内現地視察の様子

＜事業評価委員会の位置づけ＞



＜見直し計画案＞



木密事業の継続が必要

令和 6 年度防災講演会を開催しました

今年度の防災講演会は、令和 6 年 12 月 8 日（日）に向原小学校体育館にて開催し、参加者約 50 名と盛況でした。第 1 部は講師の「カービー」こと星野諭さんから被災地能登の実際のお話や身近な物でできる防災術を参加型で実践しました。第 2 部は町会から防災倉庫や合同防災訓練のお話、目黒消防団第 8 分団から最近の訓練のお話とチェーンソー実演。第 3 部は目黒区防災課のレクチャーで、避難所を想定した室内用テントや段ボールベッドの組立てや災害用トイレの仕組みなど、参加者皆さんが身体を使って学ぶ時間となりました。

命を守るかんたん防災術



防災サバイバル術 実演型レクチャー＆体と手を動かして学ぼう！

■災害直後と避難時のポイント■

①頭を守る

地震はどこでいつ起きるか分かりません。グラグラときたら、まず頭と肺を守ること。身近にあるもの（椅子、ランドセル、スーパのカゴなど）で守ろう。とっさの判断で動けるように！



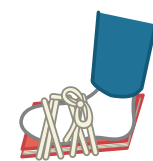
だんご虫ポーズ



頭の守り方

②避難時のくつ

水害や避難時に水浸しのまちをどう避難するか？ガラスやガレキから固いもの（新聞、雑誌、段ボールなど）で足底を守り、ビニールで覆って濡らさない工夫が必須！



本を利用した非常用のくつ



抱っこおんぶ術

③だっこ・おんぶヒモ活用術

赤ちゃんは前だっこ、歩ける位の幼児は T シャツおんぶで。いずれも両手を空けることが、災害時には大切です。

■避難所や避難生活のポイント■

①災害時のトイレ

過去の災害で避難所のトイレは悲惨な状況でした。被災直後のトイレは基本的に使わないこと。災害用トイレはビニールを二重に。おむつの吸水ポリマーも活用できます。



災害用トイレ使用時の注意



②紙食器や日常生活に必要なもの

ちらしで簡単な紙皿を皆で作りました。ポリ袋で包めば衛生的で再利用できます。動画サイトなどでも手法はいろいろ紹介されていますが、「知識」で覚えるのではなく、原理原則を知ることによって被災時に慌てず対応ができます。



皆で紙皿作り



「カービーのムゲンあそび」
じじ地震だゲーム



非常用食器 超簡単！
身近なモノで食器づくり

目黒区消防団第 8 分団の取組

消防団の活動紹介、災害対応の必要性、総合震災訓練での向原小学校での破壊訓練の紹介、町会と消防団、以上 4 つのテーマでお話いただきました。

★災害対応の必要性のポイント

- ①震災はいつくるか分かりません→だから日頃の防災訓練への参加や地域コミュニティとの連携が大切になります。
- ②なぜ震災に対応する力が必要か→自分の身は自分で守るという意識と知識があれば、自ら行動し危険から回避できます。
- ③一人では小さな力でも、束ねれば大きな力に！→一人で立ち向かって災害の脅威には勝てません。地域の人々と連携し、手を取り合い、大きな力を持って打ち勝ちましょう。

★第 8 分団は現在 20 名の団員で限られています。皆さんの参加が地域全体の安心と協力の一翼を担う貴重な一歩となります！



女性団員によるチェーンソーの実演



Instagram

第 8 分団



YouTube 動画

目黒本町五丁目南町会の取組

町会の役割や活動について、目黒本町五丁目南町会の取組などを紹介いただきました。町会は、お祭などの地域行事とともに地域防災の担い手として尽力しています。昨今は担い手不足等により防災訓練の開催が難しいなどの課題に対応するため、令和 6 年 5 月に 7 町会合同防災訓練を初開催し、起震車・煙ハウスの体験、炊き出し（アルファ化米）活動、スタンドパイプの実演などを行った様子を写真で紹介しました。

東町南児童遊園内にある、目黒本町五丁目南町会の防災倉庫は、スタンドパイプ、ホース類、発電機、担架、リヤカーなどの防災設備やヘルメット、スコップ、工具などの備品類が充実しています。児童遊園は、町会独自の防災訓練やイベント等の開催に活用できる貴重な場所です。木密事業を活用して、公園や児童遊園を増やしてほしいと、地域からの要望が強くありました。



町会防災倉庫の内部

防災課レクチャー・ワークショップ

目黒区防災課から、避難所となる向原小学校についての話と、避難所で使用する防災資機材の組立てを参加者皆さんで実践しました。会場の向原小学校は、現在建替え工事中ですが、「地域避難所」として使用可能です。発災時には、避難所運営本部を組織し、避難者、地域住民、自治体職員、施設職員等が役割分担し、相互に協力して運営することになります。

今回は、避難所生活を想定しながら、段ボールベッドや室内用防災テントを実際に組立しました。近年は製品改良により、簡単かつ強度が向上していますが、実際にやってみることでコツや課題を体感できます。ご家庭でもぜひ取り組んでみてください。



災害用トイレの使用方法



段ボールベッドの組立て



防災テントの組立て